

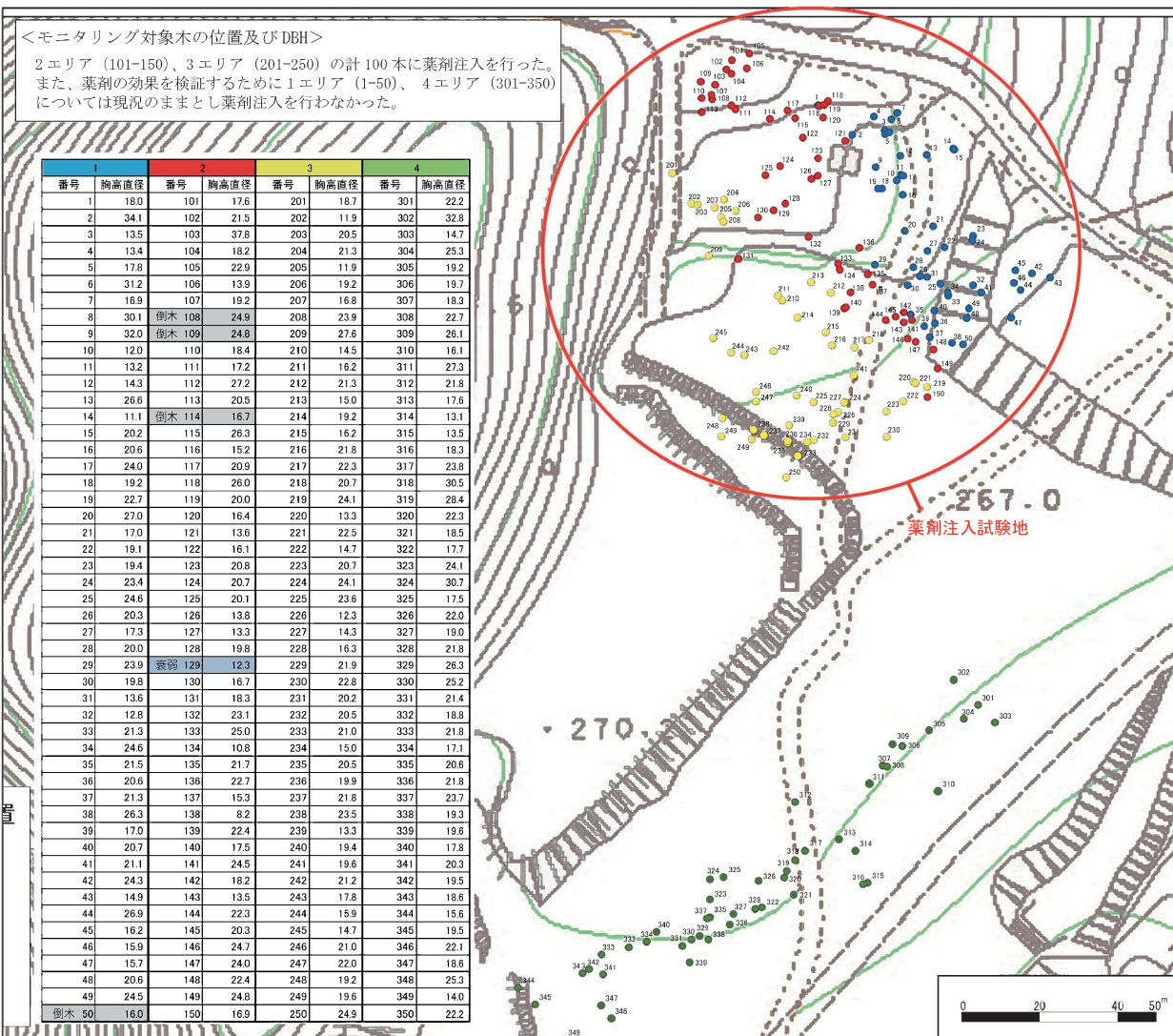
参考：小倉山におけるアカマツ林保全の取り組み

山頂付近では、平成6年の造成跡地に抵抗性アカマツの苗木が植栽され、約20年が経過した現在、樹高12m程度に生長している。

また、本地域では既存のボランティアグループによる維持管理活動が行われており、松くい虫被害木の適宜伐採等が行われている成果もあり、比較的良好なアカマツ林へ還元されつつある。しかし、今後周辺の既存アカマツ林（樹高約16m程度）と同等の生長を促すには、約20～30年の歳月が必要である。

今年度より、二井一禎京都大学名誉教授による指導のもと、アカマツ林再生に向けた取り組みが2017年度より始められた。

2017年度に行われた取り組み概要は右図のとおりで、アカマツが成木に生長するまで調査研究を継続的に行う予定である。



[現地視察] 2017年10月12日

アカマツ試験地を視察し、松くい虫の被害状況を視察した。
また、枯死木等の伐採・処理を行った。



[アカマツ分布位置図作成] 2017年10月12日、13日、11月3日

薬剤注入実施、未実施場所を区分するため、アカマツ植栽地を4つのエリアに区分し、毎木調査を行い、DBH（胸高直径）を計測した。
なお、樹木位置についてはGPSとGISを使いデータ化を行った。



[DNA試験] 2017年12月15日

供試木の中からランダムに抽出した96本の木からドリル屑を集め、DNA検出キットでマツノザイセンチュウ（Bx）のDNAの有無を調べた。



[薬剤注入] 2018年1月16日

柵エテイス指導により、モニタリング対象木100本に薬剤注入（グリーンガードNE0）を行った。



